

仏様のおはなし新シリーズ第60集その2 「お念仏にみつつけられた私」

みなさんのご利益という言葉を聞いて何を連想しますか？家内安全や無病息災、縁結びなどがありますが、ここでは、親鸞さまがお教え下さっているご利益について考えたいと思います。

私は以前、海外の大学で日本文化学科の学生たち達と生活を共にし、授業のお手伝いをさせてもらう機会に恵まれました。興味のあつた分野にチャンスを与えられた気がして当時の職場を辞めてまで、そちらに赴きました。そこは、仏教の講義や、やつてみたかったことの全てがそろつた所でした。私はゆつくり現地に親しむより先に、自分の興味のある事に力を注ぎたいととにかく頑張りました。すると次第に、周りの学生たちのペースから自分が遠ざかっていることにも気が付かなくなっていました。それでも当時の私は、貴重な環境を無駄にしたくない一心で、自身の向上心だけで考え動いていたように思います。ある日、自分の体が突然いうことをきかなくなつたのです。体中に原因不明の蕁麻疹ができ、悪寒が走り、ついには部屋から一歩も動けなくなつてしまいました。私はベッドの上で何日も悶々と時間を過ごし、何をしにきたのかと情けない気持ちで天井ばかりを見上げる日々でした。ある夜、心身共に疲れた私は帰国するかの決断の最中、ふと「南無阿弥陀仏」と声に出していたのに気が付きました。同時に、不思議と肩の力がふつと抜けてきたのを覚えています。努力すれば物事が通り、それが幸せにつながると、どこかで過信していた今まで私の価値観が崩れた時に、どんな大学の講義からも気が付けなかつた、「自分を支えてくれている世界をわすれてはいけない」という仏様のお声が聞こえたような気がしました。

「南無阿弥陀仏をとなふれば 十方無量の諸仏は 百重千重圍繞して よろこびまもりたもふなり」という親鸞聖人のご和讃があります。思い上がった考えは自分の力ではどうにも変えられない、だからこそいいときだけではなく悩めるときこそお念仏を申すことが自分を深く見つめる機縁になる。それが、仏法に出遇える道筋であり、自らの幸せだけを願うご利益よりも大切なご利益なのだと思ふ。教えて下さっているのではないのでしょうか。

